



羽合小学校 学校通信

平成26年5月14日 NO, 23

手話クラブ始めました。

皆さんご承知の通り、平成25年10月に鳥取県では手話言語条例が制定されました。鳥取県では「あいサポート運動」といって、障がいのある人が暮らしやすい社会を実現するため、様々な障がいを正しく理解し、障がいのある人にへちよっとした配慮や手助けをする取り組みを行ってきています。オレンジ色のピンバッジを胸に付けている人を見かけることがあります。あいサポート運動に賛同し広めたいという印で、平井知事も背広の胸に付けておられるのでご承知の方も多いことと思います。

この「あいサポート運動」の発祥地である鳥取県で、全国に先駆けて制定されたのが「鳥取県手話言語条例」です。耳が聞こえにくかったり、聞こえなかったりする人が自分の気持ちや考えを正しく伝えることは難しいことです。また、耳の聞こえる人が聞こえない人に考えを伝えることも難しいことです。社会も、耳が聞こえる人が中心の社会づくりが行われてきたため、耳が聞こえにくかったり聞こえない人が社会の中で情報を得たり交流を深めることが困難でした。

しかし手話を使えば自分の思いや願いをありのままに伝え合うことができます。地域の中で手話を使える人が増えれば増えるほどお互いを知り合い、交流の中で共に生きる社会を創っていくことができると思います。こうした社会を創るために手話を広げていこうとしています。

わたしたちの羽合小学校でも手話の勉強を始めます。鳥取県が作成した「手話ハンドブック」を使って各学級や学年で学習を進めようと考えています。手話クラブの活動によって、手話の勉強の仕方を学び、耳が聞こえにくい、耳が聞こえない人への理解を深めていきたいと思っています。手話を全校に広げていきたいと考えています。

障がいのある人が暮らしやすい社会は、障がいが無い人にとっても暮らしやすい社会です。一人のために行くことはみんなのためになります。みんなのために頑張ることは自分のためにもなります。こどもたちの学習が湯梨浜町をはじめとする地域のよりよい暮らしを創ることにつながっています。

【道具よりもスイング】（以前日本海新聞に掲載されたエッセイにふれて考えた事）

ゴルフの道具を売り出すときに、決めの文句がありますが何だかわかりますか？それはボールでもクラブでも共通するのですが・・・実は「飛ぶ」というのが売れるキーワードなんだそうです。「飛ぶ」というのがゴルファーにとっていかに魅力的かどうかは、ゴルフをしない私にはよくわかりませんが、とにかく「飛ぶ」と銘打ったものは売れるようです。しかし、その道具を生かすのはスイング、スイングを決めるのは練習や練習への取り組みだとすれば、スコアを上げるのはやっぱり練習なのかも知れません。わたしたちが教育活動を行う時も、魔法のボールを追うのではなく、自分のスイングに目を向けなければならないのだと思います。ゴルファーの皆様には大変失礼な事を述べたかも知れません。どうぞお許し下さい。

羽合小学校 寺谷英則